

三船優子 piano



drums 堀越 彰

# OBSESSION

クラシックピアノとドラムによる最小にして最大のオーケストラ  
今 クラシックが疾走する...



ポロディン：ダッタン人の踊り  
ラフマニノフ：前奏曲「鐘」～バガニーニの主題による狂詩曲 第17/18 変奏  
ガーシュウィン：ラブソディ・イン・ブルー 他

©Akira Haru

2018.11.08 (木)

Open 18:30 / Start 19:00

Gallery NU-VU

(兵庫県西宮市霞町 3-28)

料金 一般 4,000円 / 学生 2,000円 / ドリンク別 500円

お問合せ / ご予約

Office OBSESSION 080-5420-6115 [obsessionclassic@gmail.com](mailto:obsessionclassic@gmail.com)

Gallery NU-VU 0798-20-6385 <http://gallery.nuvu.jp>



三船優子

堀越 彰

# OBSSESSION



三船優子 YUKO MIFUNE [piano]

幼少時代をアメリカ・ニューヨークで過ごす。ジェローム・ローエンター、井口秋子、奥村洋子、安川加寿子、マーティン・キャンニンに師事。桐朋学園大学在学中、第57回日本音楽コンクール第1位。同大学首席卒業後、文化庁派遣研修員としてジュリアード音楽院に留学。91年にロス・アンゼルスにおいてアメリカデビューを果たし、LATimesにて絶賛、クラシックラジオ局 WQXR にて全米放送、高評を得る。同年フリーナ・アワーバック国際ピアノコンクール、ジュリアードソリストオーディションで優勝。帰国後は、リサイタルはもとより国内外の主要オーケストラとも共演を重ねる。これまでに「リスト作品集」「ラプソディー・イン・ブルー」「バーバー・ピアノ作品集」など、CDも多数リリース、いずれも好評を博す。ラジオパーソナリティー、NHK-BS2「週刊ブックレビュー」の司会を6年間に亘り務めるなど、メディアなど多方面で活躍。マスタークラスやアウトリーチの教育活動にも力を入れる。古典から現代音楽に至る幅広いレパートリーにも定評があり、華のあるダイナミックな演奏で聴衆を魅了しつづける、日本を代表するピアニストのひとりである。

京都市立芸術大学非常勤講師。

HP: yukomifune.com



堀越 彰 AKIRA HORIKOSHI [drums]

海老沢一博氏、村上“ボンダ”秀一氏に師事。'90年、「山下洋輔ニュートリオ」でデビュー。国内を始め、ヨーロッパツアー、南米ツアー、ベルギーの野外コンサート、日本全国縦断 88ヶ所サバイバルツアー等に参加。'94年新たに「山下洋輔デュオプラス」として活動を開始し、10年に及びレギュラーユニットとして活動。

日舞家の父の影響から、ジャズのみならず邦楽、民俗音楽とのセッションなど、幅広いジャンルにおいて国内外で活動。伊藤多喜雄、チェンミン等とも共演し、イベント構成・演出も手がけ、楽曲提供も行なう。「The WILL」「東方異聞」「SOLO-ist」などを主催した後、'12年、尺八奏者小濱明人と「LOTUS POSITION」結成。'15年、山下洋輔も加わり、国際交流基金主催でチェコスロヴァキア四都市ツアーを成功させ、アルバム「LOTUS POSITION with 山下洋輔」リリース。デヴィッド・ルヴォー演出舞台「ETERNAL CHIKAMATSU」「黒蜘蛛」に音楽メンバーとして連続参加。シルク・ドゥ・ソレイユで活躍したパフォーマー、フィリップ・エマールらと組む「INSTINCT」でも活動中。

都内に2カ所のドラムスクールのほか、日本工学院でもクラスをもつ。HP: akirahorikoshi.com

三船優子 piano × drums 堀越 彰

## OBSSESSION

待望のファーストアルバム  
好評発売中

CD ショップ大賞 2018 前期クラシック推薦盤  
レコード芸術特選盤に選出!

## &lt;収録曲目&gt;

- シチュエーション：パツ・オスティナート
- ヒオステラ：アルゼンチン舞曲
- アルベニス：アストゥリアス
- モーツァルト：ジムノペディ第1番
- ラフマニノフ：羅奏曲「調」〜パガニーニの主題による狂詩曲 第17/18変奏曲
- ボロディン：ダクタン人の踊り
- ガーシュウィン：ラプソディー・イン・ブルー

&lt;2017年2月28日〜3月1日 横浜・かながわアートホールにて収録&gt;

品番：OVCT-00132 税抜価格：3,000円 通常CD盤  
発売・販売元：株式会社ヴィア・レコード



OBSSESSION

Yuko Mifune Akira Horikoshi